

C-77 中年婦人の身体比例に関する一考察

十文字学園女短大 古松弥生 ○横浜国大教育 増田順子
お茶の水女大家政 高部啓子

目的 被服構成学の立場から、身体比例により中年婦人の体型を観察した。

方法 資料は、東京及びその近郊に在住する30~59才の家庭の主婦364名(1968~1970年計測)である。研究項目は、身長・腕付根の深さ・背丈・袖丈・頸付根囲・胸囲・胴囲・腹囲・腰囲・腕付根囲・上腕最大囲・大腿最大囲・背肩幅・背幅・胸幅・胸部横径・胴部横径・腰部横径・胸部矢状径・胴部矢状径・腰部矢状径・股上前後長の計測値22項目およびそれらの示数値21項目である。まず5才間隔で計測値の検討を行い、次に10才間隔で、示数値を用いて身体比例の年代的变化を観察した。又上半身の衣服型紙の基準項目として重要な胸囲・背肩幅、下半身の衣服型紙の基準項目として重要な胴囲・腰囲をとりあげ、他の項目との相関を検討した。

結果 主な結果は次の通りである。①計測値については、周径項目の平均値・標準偏差は、ともに漸増の傾向がある。②示数値については、加齢とともに顕著に増加する項目は、胴囲/胸囲・胴囲/腰囲・胸部矢状径/横径・胴部矢状径/横径・腰部矢状径/横径であり、顕著に減少する項目は、大腿最大囲/腰囲である。③胸囲・背肩幅・背肩幅/胸囲それぞれと、上半身の衣服型紙に関係の深い示数値15項目との相関係数を調べた結果では、背幅・胸幅に関する項目では、背肩幅/胸囲に対する相関係数が、胸囲・背肩幅に対するそれよりも大である。背幅・胸幅の割出し等を考える際には、背肩幅/胸囲の方が、胸囲・背肩幅よりも表現力が高いことがわかる。